

2026年—2027年 ルール変更





変更概要

本プレゼンテーションでは、2026–2027シーズンに導入されるルール変更の概要をまとめています。

各変更内容の詳細については、2026–2027 IIHFルールブックの該当ルールをご参照ください。

なお、以下に記載された変更点に加え、ルールの明確化およびその他の編集上の修正も行われています。

6.1 キャプテン

「共同キャプテン」は認められない。

チームは、以下のいずれかの構成を選択することが認められる。

パターン1

キャプテン **1** 名
オルタネイトキャプテン **2** 名



OR

パターン2

キャプテン なし
オルタネイトキャプテン **3** 名



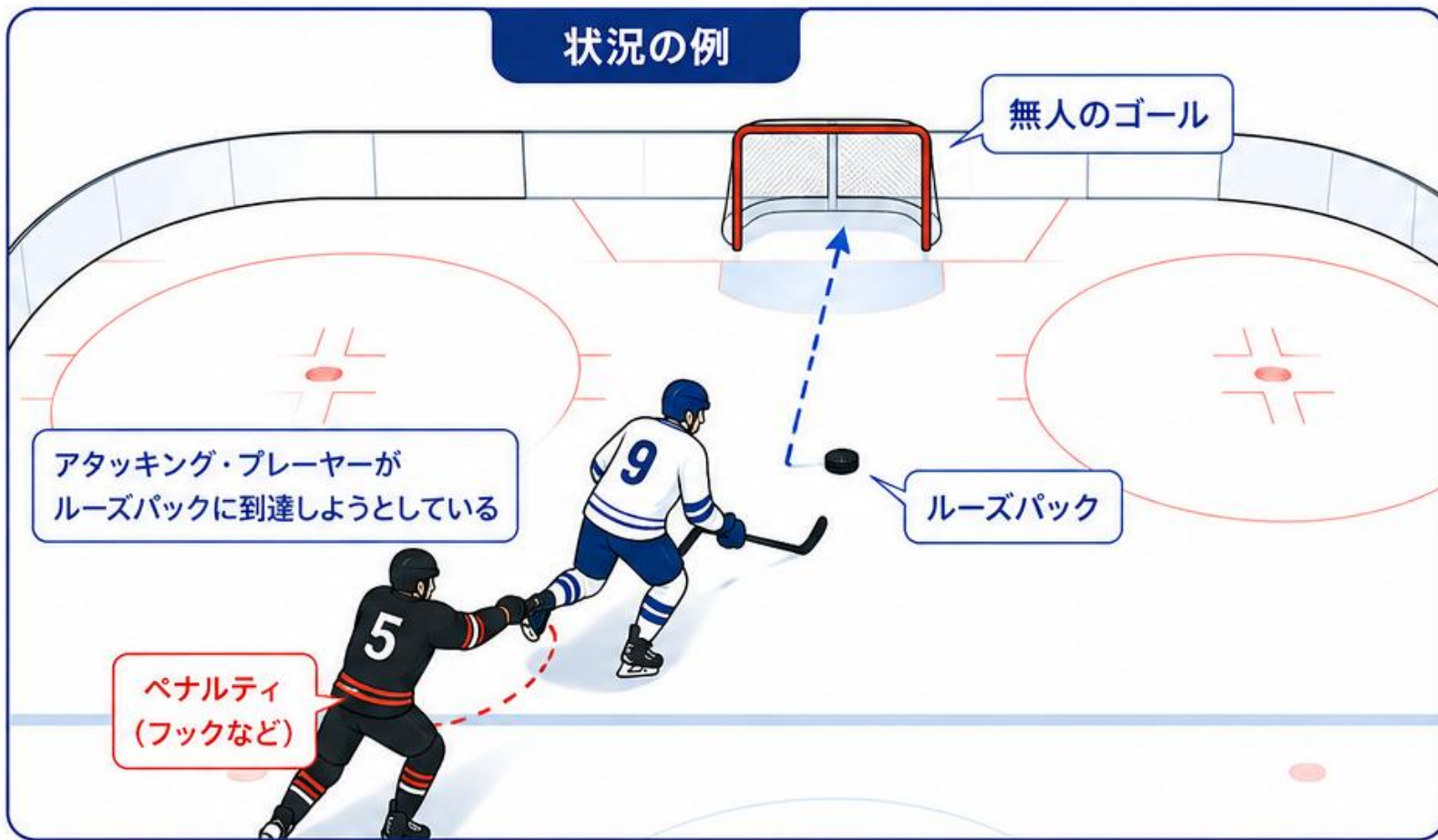
オルタネイトキャプテン

33.2 ゴールとアシスト

78. ゴール

アタッキング・プレーヤーがルーズパックに到達しようとしている際にペナルティを受け、それによって無人のゴールへのシュートを妨げられ、その結果としてゴールが与えられた場合（**認定ゴール**）、そのペナルティを受けた選手にゴールが記録されるものとする。

状況の例



判定結果



認定ゴール

(ゴールが与えられる)



ペナルティを受けた
アタッキング・プレーヤーに
ゴールが記録される

60.1 ハイステッキング



相手の肩（肩の位置が腰の高さ以上にある場合）より高い位置で相手にスティックが接触することを指します。

「ハイステッキング」とは、相手の肩（肩の位置が腰の高さ以上にある場合）より高い位置で相手にスティックが接触することを指します。

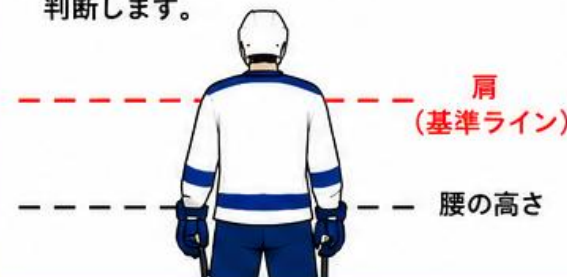
ただし、シュート動作における通常の「テイクバック（振りかぶり）」や「フォロースルー」の一環として相手に接触した場合や、「フェイスオフ」の最中に前かがみになっている相手のセンターに接触した場合は、「偶発的な接触」として許容されます。

弾んでいるバックに対して無謀にスティックを振り回す行為は、通常の「テイクバック」や「フォロースルー」とはみなされず、相手の肩より高い位置で接触が生じた場合は、規定に基づきペナルティが科されます。

※肩が腰の高さ以上と基準が明確化された。

肩の高さの基準

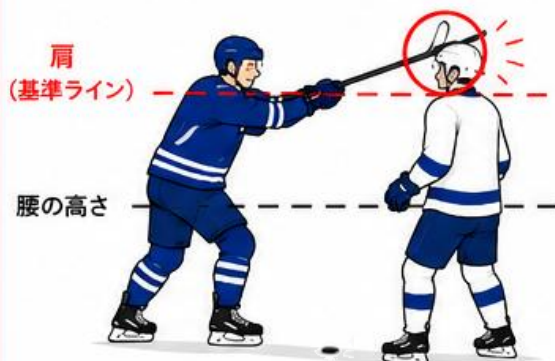
肩の位置が腰の高さ以上にあるかで判断します。



判定のイメージ

ハイステッキング（ペナルティ）

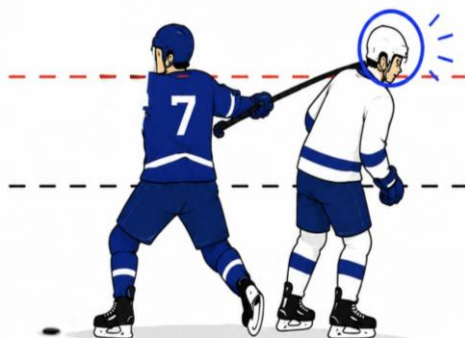
相手の肩（腰の高さ以上）より高い位置で接触



スティックが肩の高さ（基準ライン）より上で相手の顔（頭部・顔面）に接触しているため、ハイステッキングのペナルティとなる。

ハイステッキングではない（偶発的な接触の例）

テイクバック（振りかぶり）の一環で偶発的に相手に接触



相手が後方で、シュートのテイクバック（振りかぶり）の一環でスティックが偶発的に頭に接触したため、ハイステッキングのペナルティとはならない。（他の反則が適用される可能性はある）

偶発的な接触（ペナルティではない）（フェイスオフの例）

フェイスオフの最中に、前かがみの相手のセンターに偶発的に接触



相手が前かがみの姿勢でフェイスオフを行っている最中に偶発的に接触したため、ハイステッキングのペナルティとはならない。

判定のポイント



ハイステッキングの基準

相手の肩（肩の位置が腰の高さ以上にある場合）より高い位置で接触した場合に適用される。



無謀にスティックを振り回す行為は対象

弾んでいるバックに対して無謀にスティックを振り回す行為は、通常のテイクバックやフォロースルーとはみなされない。

相手の肩より高い位置で接触した場合は、規定に基づきペナルティが科される。

76. フェイスオフ

ルール変更 



フェイスオフにおいて、違反をしたチームのセンタープレイヤー（フェイスオフを行う選手）はそのフェイスオフから外され、氷上にいる他のプレイヤーが代行を務める。

ただし、アイシング後のフェイスオフについてはセンタープレイヤー（フェイスオフを行う選手）は交代させられない。

ルール変更のポイント



フェイスオフにおいて、違反をしたチームのセンタープレイヤー（フェイスオフを行う選手）はそのフェイスオフから**外される**。



氷上にいる他のプレイヤーが代行を務める。



アイシング後のフェイスオフについては、センタープレイヤー（フェイスオフを行う選手）は**交代させられない**。

適用されるフェイスオフ違反の例

- ✓ スティックの位置違反
- ✓ 相手と正対していない
- ✓ ウィングのスケート位置違反
- ✓ フェイスオフ開始前の早すぎる動作・不正な動作
- ✓ 手でパックをプレー
- ✓ スケートでフェイスオフに勝つ
- ✓ 片膝をついてフェイスオフに勝つ

76. フェイスオフ



重要なポイント

- フェイスオフにおいて、ほとんどの場合でセンターはバイオレーションを犯すと交代となります。
- センターはスティックブレード全体を白いエリア内に置き、相手と正対しなければなりません。
- ウイングは、少なくとも片方のスケートをフェイスオフサークルまたはハッシュマークに接触させていなければなりません。
- センターは、3人目のプレーヤーがパックに触れるまで、手でパックをプレーしてはいけません。
- センターは、スケートでフェイスオフに勝つことはできません。
※ スティックに当たってパックの方向が変わっただけでは、センターがスケートでプレーできる状態になったとはみなされません。センターは、スケートを使用する前に、必ずスティックでパックをプレーしなければなりません。
- センターは、片膝をついてフェイスオフに勝つことはできません。

79.1 ハンドパス



79.1 ハンドパス

プレイヤーは、空中のパックを手のひらで止めたり「叩き落としたり（バット）」すること、あるいは手を使って氷上でパックを押し進めることが認められる。ただし、オンアイス・オフィシャル（審判員）の判断において、パックを味方に向けたり、自チームに有利な状況を作り出したりしたとみなされ、かつ、その直後に当該チームのプレイヤーが（直接、あるいは他のプレイヤーやオンアイスオフィシャルに当たって跳ね返ったパックを）確保・支配した場合には、プレーは停止される。**オンアイス・オフィシャルの判断により、パックがプレイヤーの手に当たって跳ね返っただけであり、チームがそれによって有利な状況を得ていないとみなされる場合、本ルールの適用上、違反とはみなされない。**

83.1 オフサイド



83.1 オフサイド

パックをコントロールしているプレーヤーがパックより先にラインを越えた場合であっても、**両方のスケートがブルーラインの手前側の縁を完全に越える前に、スティックを使ってパックを**「所有および支配」**していれば、「オフサイド」とはみなされない。**

**** オフサイドを回避するためには、スティックによる「所有および支配」が必要であること、および両スケートが完全にブルーラインを越える前であることが明確化された。**

102.7 202.7 保護具の不適合



102.7 202.7 女子・ジュニアの防具に関する特定のルール

102.7. 手順 - 保護具の不適合

氷上のゲーム・オフィシャルは、氷上のプレーヤーが着用する保護具が規則に従っていない場合（例えば、顔面保護具が正しく装着されていないなど）、適切に対応する。

ゲーム・オフィシャルは、違反したプレーヤーを適切なプレーヤーズ・ベンチに連れて行き、コーチを通じてチームに警告を与える。ゲーム・オフィシャルは相手チームにもこれを伝え、警告する。これにより両チームともに、プレーヤーが保護具を正しく着用するよう警告される。

プレーヤーが、保護具を着用せず規則に従っていないことが次に判明した場合は、10 分間のミスコンダクト・ペナルティが科される。

202.7. 手順 - 保護具の不適合

氷上のゲーム・オフィシャルは、氷上のプレーヤーが規則に従った保護具を着用していない場合、適切に対応する（例えば、バイザーが押し上げられている、顔面プロテクターが正しく装着されていない、耳当てが外れているなど）。

マウスガードの着用が義務付けられているプレーヤーが、氷上で明らかにマウスガードを着用していない場合、氷上のゲーム・オフィシャルは適切に対応する。ゲーム・オフィシャルは、違反したプレーヤーを適切なプレーヤーズ・ベンチに連れて行き、コーチを通じてチームに警告を与える。ゲーム・オフィシャルは相手チームにもこれを伝え、警告する。

これにより両チームともに、プレーヤーが保護具を正しく着用するよう警告された。

プレーヤーが、保護具を着用せず規則に従っていないことが次に判明した場合は、10 分間のミスコンダクト・ペナルティが科される。

これらのルールは削除されシニアカテゴリーと同じ規則が適用される → 12.1 イリーガルイクイップメント